

観自在

弘長寺寺報
第二十六号
平成二十五年
新春(年)
二回発行
慶祝法要特
別号

慶祝法要 盛大裡に円成

あけましておめでとうございます。

弘長寺住職 森田裕光

ずいぶん先のお話だと思っていました慶祝法要が、昨年十一月十七日(土)〜十八日(日)の両日、無事盛大裡に円成いたしました。

一番心配しておりました天候も十八日法要当日にはカラリと晴れ、記念写真時にはお日様を浴びポカポカ陽気となりました。

まさしく仏天のご加護を頂戴することができましたこと、この上なく幸せに存じました。

お寺様方から、「伽藍整備の充実と、寺檀一如の姿が見事に合いました立派な法要でした」とのお褒めの言葉を沢山いただきましたことをご報告いたします。

これもひとえに、お檀家皆様方のご理解と物心両面にわたるご協力をいただいた賜物でございます。誠に有り難うございました。

お寺にとっても、お檀家皆様方にとっても、今後数百年にわたる後世のために、輝かしい金字塔を打ち立てることができた慶びをともにかみしめたいと思います。



御寺院様・親族・護持会三役との記念写真

年頭の挨拶

弘長寺護持会
会長 武田民三

あけまして
おめでとうございます。

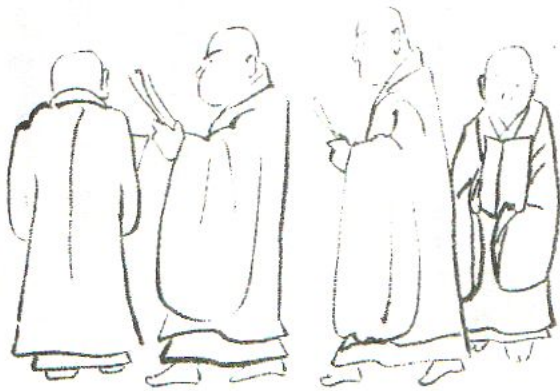
護持会会員の皆さまには、
振起の氣、漲(みなぎ)る
清々しい新年を迎えられた
ことと思ひます。

私も、当山恒例の「大般
若祈禱会」に、このほか、
清新の氣に満ちた心地でお
参りさせて頂いた皆さまは、
大改修成った本堂での、
大和尚となられた方丈さま
による大般若經六百卷の転
読は、特に圧巻であり、例
年とは異なる新たな雰囲気
でのご修行でありました。

安永二年(一七七三年)
に建立されてより、二百四
十年を経た本堂は、皆さま
のご先祖さまに捧げられる
報恩の真心が結集され、大
改修が円成かないました。
これは私ども壇信徒の喜
びであり、誇りであります。

特筆すべきは、開山堂が
修復されたことでありまし
う。

平成十七年に阿弥陀堂
(位牌堂)の改築建立がな
される折に『ご開山さまの
許に檀家の位牌を』との願
いは適わず、あまりにも粗
末な開山堂に心を痛め、申
し訳ない想いであります。
しかし、本堂大改修によ
り開山堂は、本堂の棟から
大屋根を直に下ろし、見事
に拡張修復されました。
開關七百五十回大遠忌に
あたり、一期一会の慶びと
なり、ご開山さま、歴住さ
まに報恩感謝の誠を捧げる
ことが皆さまと共にできま
した。
ご同慶の極みであります。



この大事業に終始ご尽力
を賜りました耐震改築建設

委員会は、使命を果たし解
散となりましたが、私ども
壇信徒として志納する勤め
は、まだ峠の半ばを超えた
ところであります。

厳しい世情であります、
心を一つにし、檀家の使命
である寺門興隆護持に努め
てまいります。

私達のささやかな利他行
の実践こそが、佛恩に報い
る道ではないでしょうか。

今後とも皆さまの格別の
お力添えを心からお願い申
し上げます。

年頭にあたり、皆さまの
ご多祥を祈念申し上げます。
年の挨拶といたします。

合掌

おかげさまで

弘長寺護持会
副会長 坂本研次

新年おめでとうございま

す。昨年、皆様にとつては、
それは、皆様の想いの詰ま
った年

で、然るが、災害も、野菜も、
然るが、この地方では、暑
い夏で、
豊



たよう、無事とは有り
難いものです。

お陰様で十一月十八日の
住職様の結制、大裕様の首
座法戦式、更には開關七百
五十回大遠忌、落慶法要が、
壇信徒皆様の心温まるご協
力に支えられ、大きな天候
の崩れもなく多数の方々の
ご参拝をいただき厳肅にと
り行われました。

本堂はもとより、開山堂、
浜縁、前庭などの整備が行
われ立派になりました。

七年前の阿弥陀堂改築に
続いての境内の整備につき
ましては、お檀家皆様に大き
なご負担をいただいております。

厚くお礼申し上げますと
共にこれからもよろしくお
願い申し上げます。

阿弥陀如来像製作から四百八十年、一代を三十年として十六代、弘長寺開闢より七百五十年は二十五代にも遡りますが、それよりもつと古くから阿弥陀如来像の胎内銘で分かるように私たちの祖先は、世の中の平穏と無事、子孫長久を冀って、今日に引き継いで来ています。まことに有り難いことです。

いま私たちは無事に耐震改修築を完成させることが出来ました。

お檀家皆様がお心一つにして成し遂げられました「おかげ」です。

先人たちと同様に報恩、感謝の心をもち続けたいと思います。

どうか今年が良い年でありませうように。

合掌



日々是好日

護持会副会長

内田 松寿

皆様には、健やかに新年を迎えられたことと思えます。

今年一年が好き年でありませうお祈り申し上げます。

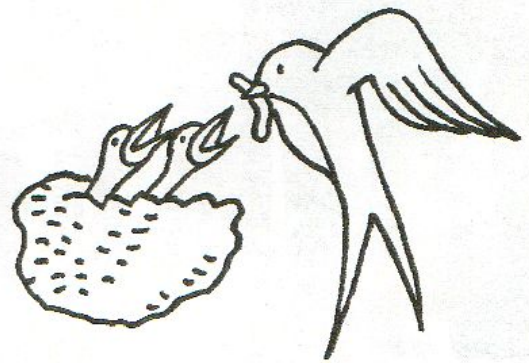
新春恒例の「高僧名士逸品展」(山陰中央新報社主催)を松江会場に見に行きました。

全国各地の高僧をはじめ各界名士の揮毫による一行書や色紙など約百点が展示・即売されていきました。

その中で「日々是好日」が四点ありました。

禅の語としてよく知られていますが、今一度調べてみました。この語は中国・唐代の雲門文偃(ぶんえん)禅師の悟りの境地を表した、最高の言葉だといえます。

毎日いい日が続いて結構だという浅い意味ではありません。



好日というのは、好いと悪いとかいう比較の問題ではなく、一日を精いっぱい生きていく姿をいっています。

その日一日を只ありのままに生きる楚々とした境地のことです。

何か大切なものを失った日であるうとも、ただひたすらに生きれば、全てが好日の意味です。

翌日、「日々是好日」を半切にしたためてみました。

ちなみに今年の書初めとしては、漢字「南山祝壽長」、かな「新しき年の始めに思ふどちい群れて居れば嬉し

くもあるか」を書きました。

今を大切に生きることが人生とまじめに向き合うこととなります。

日々新たな気持ちで、この一年を過ごして行きたいと思えます。

本年も変わりましたませう宜しくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

合掌

お知らせ

お願い

○第二回目義援金

送りました

東日本大震災の勸募に対し、一昨年曹洞宗を通して送金いたしました。前回に引き続きご喜捨賜りましてありがとうございます。

お陰様で三万四千二百五十円が集まり、昨年八月三日に、郵便局から曹洞宗を通して現地に送金されましたのでご報告致します。

弘長寺 曹洞宗 義援金

00190-2
604062

曹洞宗義援金

0404
松江市内六道町東東854
森田裕光

24-08-03
家郵便局

63203 102
991250003

お知らせ

お願い

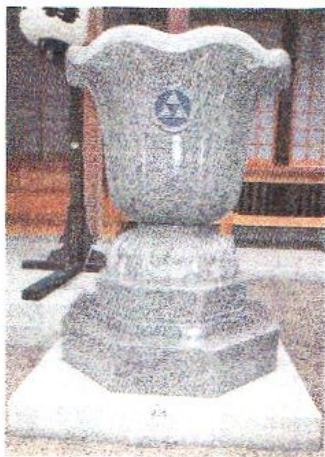
●天水鉢をご喜捨いただきました

本堂正面屋根下に天水鉢一對をご喜捨いただきました。

施主は、前護持会長 中垣地区 屋号前田 土江嘉久氏です。

為 土江家先祖代々菩提

当山には今まで無かったものですが、住職の肩より高い大きな天水鉢で、立派な荘厳となりました。



●住職個人として前庭敷石を喜捨させていただきました

お便りでお知らせしましたが、前庭の敷石が幅の狭いコンクリートのつぎはぎだらけ仕様でお粗末でしたので、思い切って喜捨させていただきました。

昨年二月に亡くなった森田久美子寺族の遺志でもありました。何百年に一度の大改修に、住職としても布施行をさせていただくことが出来て感慨無量です。



●徒弟大裕が大本山永平寺様での修行を了えて四月に帰ってまいります

昨年三月十一日に上山した弟子大裕が一年間の修行を了えて帰って来ます。

伝法・瑞世の後、副住職の手續きに入ります。葬式・法事の仕方等も現場で覚えさせなければなりませんので、どうかご法事も二人お呼び頂ければ喜びます。

盆棚経は二人ですから、可能な限りお檀家様全て廻ろうと思えます。

その代わりお葬式等が入る可能性がありますので、正式には八月十三日から八月十五日までなのですが、それを延ばして、最終八月二十日頃まで棚経に廻

ろうと思えますので、どうかご理解とご協力をお願いいたします。(諸事情により廻りきれないこともございますのでご理解下さいませ)

●四月十四日大般若を再開いたします

昨年は工事中でお休みをいたしました。転読大般若祈禱会を再開いたします。

四月十四日(日)午後二時、本年から徒弟大裕が参加しますので、賑やかになると思います。

法話はいつもの通り住職が行います。近づきましたらご案内いたします。

●遠方へのお詣りより菩提寺の鐘撞きはいかがですか
本年も除夜の鐘を撞きにお詣りされた方の写真です。きつと良い年が約束されます。



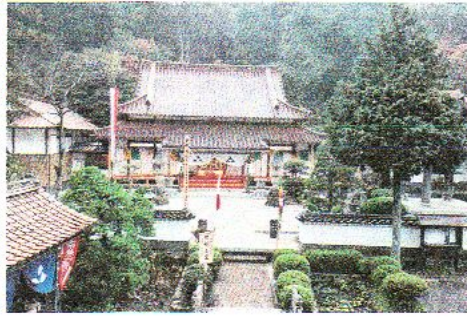
一番乗りです



慶祝法要写真展

霽困気を味わって頂きたく、写真を多く掲載しました
見づらい方は拡大鏡でお願いします

●十一月十七日
入寺式・土地堂念誦・配役行茶・祝麴



準備完了

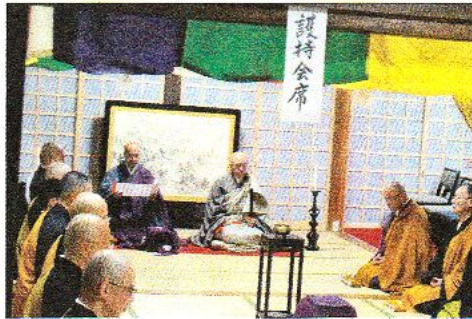
角塔婆



安来：地福寺様揮毫



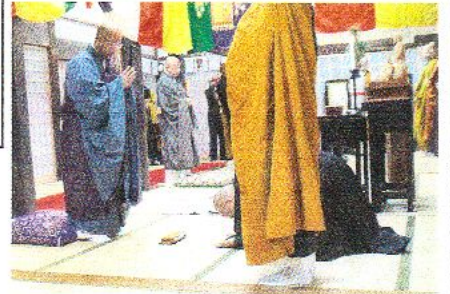
間もなく開始



護持会席



首座入寺式



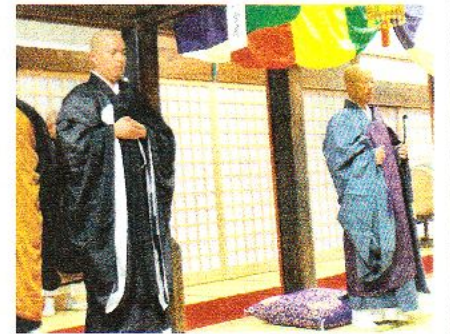
配役行茶



武田会長挨拶



土地堂念誦



祝麴（お祝いうどん）盛り上がりました



慶祝法要写真展

●十一月十八日慶祝当日
結制上堂・首座法戦式・落慶法要
七百五十回大遠忌・壇信徒総回向

拡大鏡を
ご用意下さい



管長御代理祝辞

結制上堂



永平寺御専使祝辞

梅花講のお唱え

首座法戦式



總持寺御専使祝辞



教区長祝辞



迫力ある問答でした



宗議会議員祝辞



坂本副会長祝辞



慶祝法要写真展

十一月十八日
結制上堂・首座法戦式・落慶法要
七百五十回大遠忌・壇信徒総回向

拡大鏡を
ご用意下さい

七百五十回大遠忌
住職から本寺様に献供

本寺様祝辞



落慶式 道場を浄めました
散華の華を拾われるお檀家様



業者カナメに感謝状と
記念品授与



武田護持会長
挨拶



住職挨拶



四十名の随喜僧の
遊行は圧巻です



焼香です



壇信徒総回向



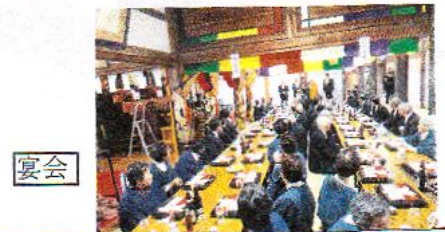
宴会



宴会 ほろ酔いを超えた時点です



宴会 乾杯音頭 土江嘉久氏



宴会

住職は考える

江湖会の間答を顧みて

住職

十一月十八日、慶祝法要最初の儀式は結制上堂でありました。

住職が和尚の位から大和尚になる儀式であり、その力量を問われる問答が待ち受けているのです。

首座法戦式の間答は、予め問も答えも完璧に用意がなされていて、暗記したものを披露すればよいのであります。上堂の間答は何を問われるか判りません。

多くの他寺結制に参列したか、中には質問者の出会うこともあれば、珍答に和尚の力量が問われる儀式なのだ。

いざ須弥壇上にあがって問われるのは、難しいといふことがよく解つた。

や答えがない、わけではな、い、ある、その答をか、い、簡潔に、難解さ、付、か、その答えについて答えき

れなかつた箇所を述べてみたいと思ひます。



○如浄禅師の言葉

深読みする

坐禅について問われた。

私は「曹洞宗の坐禅は極めて難しい」と二度繰り返した。

それは道元様が中国での修行を終えて日本に帰る際、お師匠である如浄禅師様のお言葉が、既にそのことを証明しております。

「国に帰りて化を布き

城邑聚落に住することな

か、れ、国、王、大、臣、に、近、づ、く、こ、と、な

た、か、れ、深、山、幽、谷、に、居、し、一

簡、半、箇、を、接、得、し、吾、が、宗

な、か、れ、断、絶、せ、し、む、る、こ、と

「建擲記」は十五世紀半ば

「建擲記」は十五世紀半ば

に道元禅師の伝記を、あらゆる資料を集めてまとめたもの、信憑性が高いと評されるもの、「宝慶記」の信憑性の高い「宝慶記」の中、この言葉の有無を探したが、見つからなかった。

最初の「化を布き、私、廣く人天を利せよ」は、私の説いた坐禅の法を広く弘めよ、という意味では決してない。

そうではなく、仏道に對し、真剣に本物を求める求道者に對してのみ利せよ、という意味が隠されている。

そうでなければ、その後の言葉と矛盾することになる。

注目すべき最後の言葉

というの、最後の「断絶」という言葉であります。

普通なら、「私がお前に説いたこの坐禅の法は最上

の法であるから、日本に帰つたら、國中に弘宣布せよ、

と、いうべきところなのに、

まさかの「断絶」といふ言

葉が用いられており、断絶

の可能性・危険性が別れ際

に告げられていたのです。

国、王、大、臣、に、近、づ、く、こ、と、な

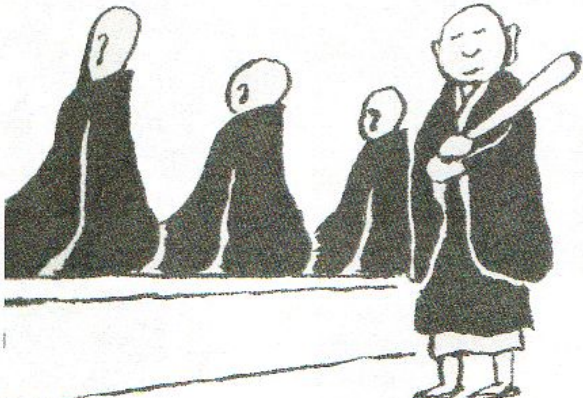
に、住、せ、ず、弘、宣、流、布、を、中

に、こ、と、は、山、奥、に、近、づ、か、ず、都

だ、け、を、目、指、し、て、ひ、た、す、ら、本、眼、中

う、こ、と、で、し、よ、う。

その当寺の中国禅宗五山は、悉く公案禅であった。童寺に、住されたが、この天に、染まつた雲、前住職は公案禅の無際了派、今、度、の、師、如浄禅師の教、え、は、チ、ン、プ、ン、の、住、持、は、嚴、し、い、だ、け、で、全、く、意、味、が、解、ら、ん、だ、け、家、に、あ、る、住、持、は、嚴、し、い、だ、け、で、全、く、意、味、が、解、ら、ん、だ、け、で、全、く、意、味、が、解、ら、ん、だ、け、



礼拝例、え、い、き、なり、焼、香、を、用、い、ず、念、仏、修、懺、を、行、な、し、て、仰、げ、な、い、か、ら、ず、ち、の、修、行、と、比、し、て、池、田、魯、参、の、面、持、ち、な、つ、た、の、で、は、な

住職は考える

いくら求めても尽きない
魅力もあるのですから。

○ボランテイアと仏の利
他行について

次に世の中の世情をどう
見るかについて問われた。
私は、東日本大震災につ
いて取り上げ答えた。

今回の大震災で、曹洞宗
青年会が数人で東北にボラ
ンテイアに向向された。

当然素晴らしく有り難い
ことで尊い事だと思えます。

しかし、私には苦しい体験
がある。

一九九五年阪神淡路大震
災発生後、いずも曹洞宗青
年会のメンバーとして、長
田地区へ炊き出しボランテイ
アに参加した。

その後何年も「大変良い
ことをした。仏の利他行だ。」
と確信をしていてのだが、

年を経るにつれて何かが違
うと思いはじめた。

何か物足りなくどこか
のポツカリ穴があいている

のだ。それが長い間何であるの
か全く分からないでいた。

了

「そうだと気づいたのは
ごく最近である。いたのは
他人が困っている時に遠
方に出かけている時に遠
方の普通のボランティア
の方達と全く同じではな
いか。

しかし、私たちは僧侶で
ある。普通のボランティア
の方達は普通の行動であ
るか、行動で追いかけて
きたら、ある日ハッ
としたら、ある日ハッ
と当たら、ある日ハッ
と当たら、ある日ハッ

ヒヨツとしたら、私はあ
の時僧侶の本分である「信
仰」を見落としていたの
ではないか、と気がついた。

私が貢献できたのは、長
田地区のほんの一部の方
達だけのためであった。

他の大勢の方達のためには
何もしないで済ませるこ
とができなかつた。

大きな落とし穴である。
本堂で簡単に読経してか
ら出かけただけであつた。

本来なら、何千人の方が
お亡くなりになったのか
め、その供養をまず丁寧に

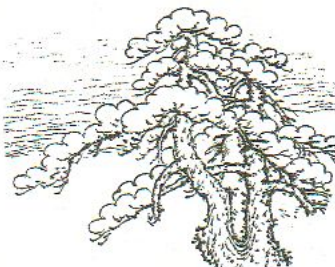
懇ろに命をなくされた方に
て仏様の命をなくされた
は、命をなくされた方に
は、命をなくされた方に
は、命をなくされた方に

模範からすれば微々たるもの
に、他の被災された方々
に、他の被災された方々
に、他の被災された方々
に、他の被災された方々

お亡くなりになったのか
め、その供養をまず丁寧に
お亡くなりになったのか
め、その供養をまず丁寧に
お亡くなりになったのか
め、その供養をまず丁寧に

足らなかつた。被災地がある、炊き
出された被災地がある、炊き
行った被災地がある、炊き
足らなかつた。被災地がある、炊き

懇ろに命をなくされた方に
て仏様の命をなくされた
は、命をなくされた方に
は、命をなくされた方に
は、命をなくされた方に



おの心かもしれない。信じてい
おの心かもしれない。信じてい
おの心かもしれない。信じてい
おの心かもしれない。信じてい
おの心かもしれない。信じてい

勿論一秒一分を争うよう
な利他行は別問題であるが、
案外私だけかもしれないが、
とかく仏法に身をゆだねて
祈るはずの僧侶が仏様への
ありはしないだろうか。

これはボランテイアに出
かけることもできない僧侶
に、一つに二万人近い方が
亡くなりになつたのに、私
の法要に力を入るべき
であつた。

合掌